

短報

教育学部「探究活動IIA」の改善点とその評価

山下浩之¹・太田 謙²・松尾太郎²・正木智美²・西村直樹²

The improvement points and its evaluation of “Inquiry activitiesIIA” class
in the Faculty of Education, Okayama University of Science

Hiroyuki YAMASHITA¹, Ken OHTA², Taro MATSUO², Tomomi MASAKI², and Naoki NISHIMURA²

Abstract: Owing to the heavy rain in the West Japan Flood Disaster in 2018, we were forced to change the canoe training place from the Myojo weir area to the New Tsurumi bridge area. Following this change of this program, however, the students' appreciation of the subject was high just as in the program in the previous year.

I. はじめに

2018年は7月に「平成30年7月豪雨(前線及び台風第7号による大雨等)」(以下「7月豪雨」と省略する)に見舞われ、岡山県だけでなく西日本一帯に多くの被害が発生した。教育学部新設以来、実施してきた「探究活動IIA」の実習地旭川明星堰もその例外ではなく、一部が決壊し、実習地の変更を余儀なくされるに至った。今回の実習地の変更に伴い、プログラムも一部変更することで実習を円滑に行うことができたので報告する。

II. 「探究活動IIA」の実習地およびプログラムの変更

1. 実習地の変更について

明星堰は国土交通省岡山河川事務所旭川出張所が2016年から旭川河川維持工事として明星堰周辺の河道掘削工事を行い、2018年6月にほぼ完成をしていた。左岸側は整地されて見通しが良くなり、また明星堰までのアプローチも容易になっていたため、実習中の安全管理は格段に改善されることになった。しかしながら2018年7月豪雨災害により、例年使用してきた明星堰は図1の通り決壊した。

そこで新実習地として新鶴見橋付近に変更し、図2のようなカヌー上艇地点と周囲コース設定を行った。本部は蓬萊橋下に置き、人員点呼等もこの蓬萊橋下で行った。

2. プログラムの変更について

カヌー実習と同時に行っていた明星堰周辺の貝類



図1. 明星堰決壊の様子(2018年7月17日撮影)。

を中心にして自然観察および百間川の歴史や防災に関する内容を、岡山城周辺の自然を生かした河川敷周辺の植物の生物多様性や生存戦略をテーマにした内容に変更した。実習地が異なるとその周辺の生物環境も異なるが、現地で観察できる内容を積極的にプログラムに取り込むことにした。昨年度からの変更後のプログラムは図3の通りである。図4は岡山城下でのカヌー実習の様子を撮影したもので、その下流部をせき止めてあるため、水流はほとんどなくカヌーが初めての学生でも安心して実習ができる。図5は自然観察の様子を写したもので、河川敷ならではの植物が主な観察対象となった。

3. 実習後のアンケート調査について

実施日：2018年10月1日(講義最終回時)

実施時間：20分

内容：

- ①この講義全体の満足度の5段階評価
- ②授業前の、この授業に対する期待値を50とした

¹. 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学教育学部 Faculty of Education, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama-ken 700-0005, Japan.

². 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学自然フィールドワークセンター Nature Fieldwork Center, Okayama University of Science, 1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama-ken 700-0005, Japan.

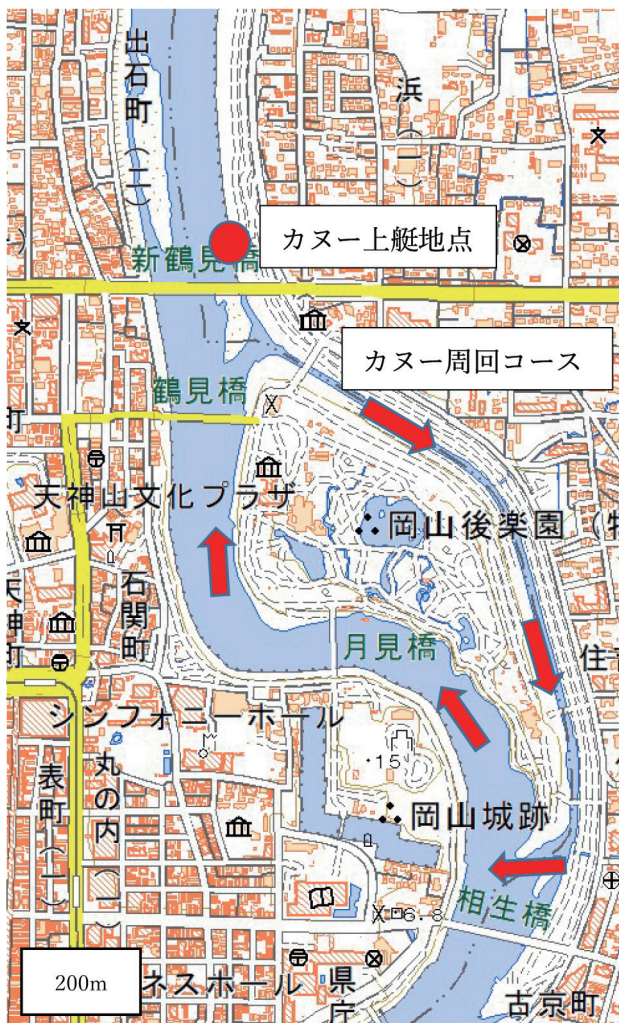


図2. カヌー実習の新実習地(赤の矢印は使用したコース).

(Aグループ)	(Bグループ)
朝礼・準備	
(午前) 活動A(カヌー)	活動B(自然観察)
昼食	
(午後) 活動B(自然観察)	活動A(カヌー)
カヌー駅伝	
(グループごとに上艇順を決め、一斉にスタートしてタイムを競うタイムレース.)	
表彰式・撤収・終礼・清掃活動	

図3. 変更後のプログラム.

場合の授業後の満足値

③授業後の感想(自由記述)

III. 実習後のアンケート結果と学生の反応

アンケートの回収は33名(94%)であった.

図6は、学生がこの講義全体の満足度を5段階で



図4. 岡山城周辺でのカヌー実習.



図5. 自然観察中の解説.

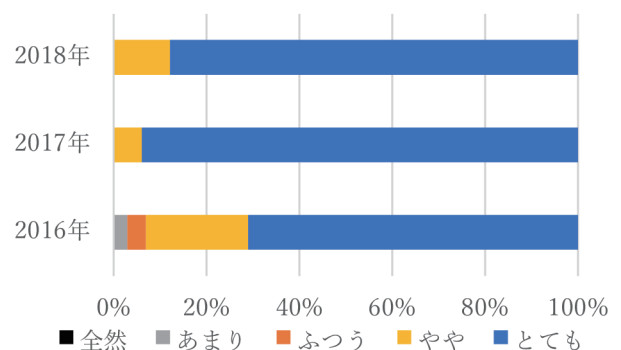


図6. この講義全体の満足度の5段階評価(2016年~2018年の3年間の比較).

表1. 授業前の期待値と授業後の満足値の比較.

	2017 年	2018 年
平均値	95.3±40.4	99.4±50.4
授業前との比	1.9	2.0

評価したグラフである. このグラフから3年間を通して学生の大部分がこの講義に満足していることがうかがえる. (山下ほか 2017, 山下ほか 2018)

また, 授業前の期待値を50とした場合の授業⑤の満足値については, 表1の通りである. 200以上の数値については全て200として算出した.

表1によると, 過去2年間を通して満足値が授業前の期待値のほぼ2倍の値を示していることから概ね好評であることが判断できる.

授業後の学生の感想をいくつか紹介する.

○泳げなくて水が怖いから, ものを使ってでも浮いてみたかった. 今まで水に対して抵抗しかなかったので浮けて漕ぎだして本当に楽しかった. 言葉では言い表せない感動をありがとうございました.

○このような貴重な経験を授業でできたこと, いろんな人々に会わせて下さったこと, 感謝しかありません.

○どんな活動も準備期間が大切だと思いました. この授業を選んだおかげで新しい友人もでき, 滅多にできないカヌーが体験でき, 水上からの不思議な景色を見ることができ, 安全確保も学ぶことができました. この講義を選んで本当に良かったです.

○こんなに楽しく終わる授業は他にないと思います. このように授業をするたびに楽しくなるような授業が良い授業なのだと思います. 自分もそのような授業ができるような教師になりたいです.

○カヌーという1つの活動をするためにたくさんの人の協力があつたことに気づきました.

○来年, SAで参加したいです. カヌーは楽しい反面とてもハードで体力的にきつかった私ですが, 駅伝の時の声援やカヌースクールの方々の熱い激励を受け, 前に早く進めたときの気持ちは形容しがたいものでした. 友人が出来たことや大学生にもなって川に飛び込んだこと, あの爆笑していた時間はこの時間じゃないと手に入りませんでした. ありがと

うございました.

○楽しかったのでプレゼンテーションの調べ物も苦なくとてもわくわくしながらやれました.

○実習中に先生から声をかけてもらい, 嬉しかったことが心に残っている. 教員は言葉の力を持たなければならないと気づきました.

これらの感想によると, 学生はカヌーの技能習得だけではなく, 新しい人間関係の構築の仕方や安全管理面, 教育的な配慮の仕方など様々な点を話題にあげていることが特徴的である. 野外活動のメリットと同時にそこに潜む危険性を知りつつ総合的に評価できていることは好ましい. 将来の教育を担う現在の学生が少しでも野外教育に興味を持ち, 探究活動を推進できるような教師がこのカヌー実習を契機として育っていくことを心から期待する次第である.

7月豪雨により, 来年度以降の実習地は今後検討が必要になるが, 今年度の明星堰から旭川下流部への変更でも十分にプログラムとして価値は昨年度と比較しても劣らないことがわかった. 今後, 災害時の救命法等も取り入れながら川全体をテーマにした探究活動に発展させていくつもりである.

IV. 謝辞

今年度の「探究活動IIA」では国土交通省岡山河川事務所所長の三戸雅文氏, 岡山河川事務所調査設計課課長の柴山慶行氏, OCC京橋カヌースクール代表本谷光円氏, 北原久義氏をはじめとしたカヌー公認指導員の皆様, 旭川岡山漁業組合代表理事組合長の花岡栄太郎氏に多大なる協力を頂いた. 心から感謝とお礼を申し上げる.

V. 引用文献

- 山下浩之・太田 謙・松尾太郎・正木智美・西村直樹(2017). 「カヌー実習を取り入れた新設教育学部における自然体験活動の実践」, *Naturalistae* 21: 69-76.
- 山下浩之・太田 謙・松尾太郎・正木智美・西村直樹(2018). 「教育学部カヌー実習における新たな試みと考察」, *Naturalistae* 22: 137-142.

VI. 要約

平成30年西日本豪雨の影響でカヌー実習地が明星堰から新鶴見橋付近への変更を余儀なくされた. それに伴いプログラムの一部を変更した結果, 例年同様の学生からの高い評価を得ることができた.

(2018年12月13日受理)